

令和 7 年度
水産資源調査・評価推進委託事業のうち国際協調型調査事業のうち鯨資源調査事業
(北太平洋鯨類資源調査) 成果報告書

【受託者】

住 所 東京都中央区豊海町 4 番 5 号

氏 名 一般財団法人 日本鯨類研究所

1. 目的

本調査は、北太平洋におけるイワシクジラ、ナガスクジラ、ニタリクジラや、希少種のシロナガスクジラ等を含むヒゲクジラ類を中心とした鯨類について、以下を目的として実施した。

(1) 現存資源量推定のための情報収集

(2) 鯨類の分布状況の把握、鯨類の移動及び回遊並びに系群構造解明のための実験の実施

なお、本調査は、IWC が約 30 年間、南半球で確立した IWC/IDCR-SOWER 調査の目視調査方法を踏襲している。

2. 調査体制

本調査は、第三勇新丸(742 トン、共同船舶株式会社所有)を用船して実施した。

3. 調査期間

令和 7 年 7 月 30 日 塩釜出港

令和 7 年 9 月 1 日 塩釜入港

4. 調査海域

調査海域は、北緯 51 度 30 分線以南、北緯 30 度線以北、東経 140 度線以东、180 度線以西の海域(ただし、漁業の許可及び取締り等に関する省令別表第四の沖合底びき網漁業の項第一項イに掲げる海域及び外国の漁業に関する管轄権が及ぶ水域を除く)とした。

5. 調査結果

(1) 目視調査の探索努力量は 1,121.0 浬であり、イワシクジラ 86 群 228 頭、ナガスクジラ 22 群 27 頭、マッコウクジラ 23 群 24 頭が発見された。

(2) 自然標識の撮影は、シャチ 2 頭について行った。

(3) バイオプシーサンプルの採集は、イワシクジラ 6 頭、ナガスクジラ 5 頭の標本を採集した。

(4) 衛星標識装着実験として、イワシクジラ 4 頭、ナガスクジラ 2 頭に衛星標識を装着した。

6. 調査記録等の保管

全ての記録類は調査終了後、一般財団法人日本鯨類研究所第 1 研究部門が保管する。本調査の詳細な結果は、2026 年に開催される IWC 科学委員会等において発表を予定している。